

【灯】 「A I との共存共栄」  
＜2023/2/27 大分合同新聞掲載＞

小6まで囲碁を習っていた関係で、今でも囲碁や将棋を見るのが好きで、特に将棋のネット中継にハマっています。

近年A I（人工知能）の進歩は目覚ましく、トップ棋士でもA Iにかなわない時代が来てしまいました。今では、プロ棋士自身が、日々の研究にA Iを積極活用しています。でも、A Iに勝てなくなったからといって、人間同士の対局の価値が損なわれたわけではないところに、人が織りなす文化の奥深さを感じます。自身の頭脳だけを頼りに、限られた時間の中で、必死に最善手を追い求める棋士の姿には、いつも心を揺さぶられます。

ネット中継を格段に面白くしてくれているのもA Iです。対局者のどちらが優勢かを数値で示すとともに、次の候補手も評価値付きで提示してくれるので、見ていて分かりやすいし楽しい。応援している棋士が、最善手を繰り出せばリードを保てる一方、それ以外の手だと逆転されてしまう、という局面を迎えたときのファン心理は、ひいきチームが一打逆転のピンチに陥り、お願い抑えて～と祈る状況にとっても似ています。

ただ、いくらネット中継が便利で面白くても、ファンとしてはプロの対局を間近で見たいもの。最近はお城やお寺などでもタイトル戦が行われていますが、やっぱり王道は温泉宿。「おんせん県おおいた」での対局を、この目で見られる日を夢想する今日この頃です。（日本銀行大分支店長）